

麦生産者（麦類種子購入者）の皆さんへ

備蓄種子の供給について

今年も麦類種子の安定供給対策として、一部「備蓄種子」を供給します。

「備蓄種子」は、昨年（平成27年）生産された種子を低温倉庫で保管し、供給にあたり発芽試験を実施し、発芽率（90%以上）を確認したものを供給します。

今年生産されたものと発芽率等に差はありませんので安心して使用してください。

なお、紙袋には、次のシールが貼付してあります。

低温備蓄種子（発芽試験済）

（公社）栃木県米麦改良協会
JA 全農とちぎ



備蓄種子の供給品種

小麦

さとのそら
イワイノダイチ
タマイズミ
ゆめかおり

二条大麦

サチホゴールドデン
ニューサチホゴールドデン
アスカゴールドデン
とちのいぶき

六条大麦

シュンライ

- 種子の空袋、生産物審査票は収穫期まで保管しておいてください。
- 高品質安定生産に向けて、裏面の適期播種・排水対策等もご覧ください。

JA 全農とちぎ・（公社）栃木県米麦改良協会

麦類の高品質安定生産に向けて

1 適期播種

①播種時期の目安は、年内に葉齢3葉程度、茎数500～600本/m²以上を確保できる時期
県北部：11月1～10日、県中部：11月6～15日、県南部：11月9～18日

②播種量(ドリル播き、10a当たり)

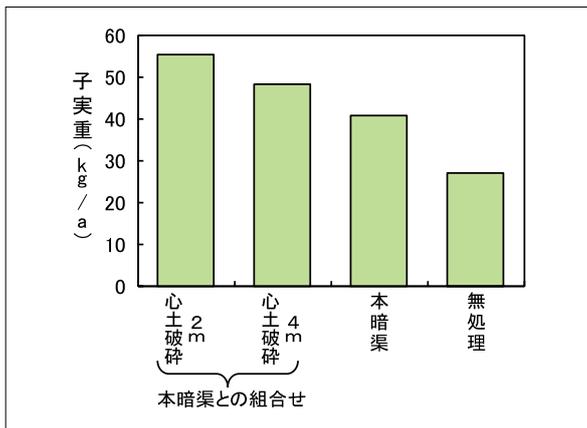
- 小麦(さとのそら、イワイノダイチ、タマイズミ、ゆめかおり)：7～8kg
- 二条大麦 サチホゴールド、ニューサチホゴールド：8.5kg、アスカゴールド：6.5～7kg、とちのいぶき：8kg
- 六条大麦(シュンライ)：7kg

播種時期が麦の生育に及ぼす影響

遅れた場合	早い場合
<ul style="list-style-type: none">●蛋白質含有率が高くなる●硝子粒率が増加する●収穫時期が雨に遭遇し、穂発芽の発生や品質低下をまねく●凍上害が発生しやすい●分げつ数が少なく、穂数が少なくなる●赤かび病が発生しやすい	<ul style="list-style-type: none">●側面裂皮粒等の被害粒が発生しやすい●1穂粒数が少なくなる●整粒歩合が低くなる●凍霜害を受けやすい●綺萎縮病に感染しやすい●過繁茂で茎数が多くなるが、無効分げつが多くなる

2 排水対策のポイント

- ①**団地化**：排水良好な圃場に作付けするとともに、地域の話し合いによる圃場の団地化を図る。
 - ②**地表排水**：地表水の早期排除のため、圃場周囲に排水溝を設置する。
 - ③**浸透排水**：地下浸透性が著しく劣る圃場では、プラソイラやスタブルカルチ等により心土破碎を行う。
- なお、排水対策が不十分な圃場に作付けする場合は、畝立て同時播種栽培を組み合わせる。



排水施工とビール麦収量 (栃木農試成績より作図)



大雨後の排水対策有無の比較
左圃場：排水対策無し、右圃場：排水対策有り (明渠+心土破碎)

3 土づくり

土壌診断に基づく土づくり肥料の施用、良質堆きゅう肥や稲わら等有機物の施用、作土深の確保等総合的に行い、地力の向上・維持に努めましょう。

- ①**pH**：5.5以下になると生育不良になるので、播種前に苦土炭カル等によりpH6.5を目標に酸度矯正を行いましょう。
- ②**磷酸**：磷酸は根の発達や分げつの発生を促進するため、磷酸地力の低い場合は苦土重焼燐等により不足分を施用しましょう。
- ③**苦土**：苦土が不足すると葉に黄化が生じ、光合成不足となり粒の充実度が悪くなります。また、苦土欠の状態では、磷酸が十分存在しても麦が吸収できません。